

平成 20 年度  
事業報告書

自 平成 20 年 4 月 1 日  
至 平成 21 年 3 月 31 日

社団法人日本ボート協会

## 平成 20 年度事業報告

協会事業の目的とする「ボート競技を振興して日本国民の体力の向上とスポーツ精神を育成することによりわが国文化の向上に寄与すること」に基づき当年度事業を実施した。

「全日本選手権大会及び各種競漕会の開催」については、新たな競漕会として第 1 回全日本マスターズレガッタを開催して 700 名を超える参加者を得たことで、第 2 回大会以降の開催に弾みが付いたこと、また、若年層のボート競技普及を推進する観点から全国中学選手権競漕大会の主催団体に加わり競技運営に参画したこと、これら大会を通じて競技者人口の増大が実現できたこと、が大きな収穫であった。

「オリンピック及び国際競漕大会への日本代表団派遣」については、北京オリンピック大会でのメダル獲得を目指して、ジャンニ・ヘッドコーチの下、欧州長期合宿で高い質と強度のトレーニングを重ねた。その結果、本大会では女子軽量級ダブルスカルがわが国ボート界史上初の B 決勝に進出し 9 位に上がったものの、男子軽量級ダブルスカルは実力を発揮できずに過去 2 回の 6 位から 13 位へ後退し、大会直前における選手の心身両面のコンディショニングとそれを支援するマネジメントに課題を残す結果となった。

「調査・研究・指導・強化及び普及啓発」については、例年のとおり、審判養成・研修、各種の指導者、インストラクター/アドバイザー養成に加えて、選手強化事業と競技者育成事業として各年代に即した国内・海外での選手強化合宿を実施した。また、普及啓発事業として、第 21 回全国マシローイング大会とボート普及の催しの開催、関連団体への助成金交付と業務支援等を行った。メディカル・ドーピング検査関連では、医師の大会派遣と遠征帯同、ドーピング検査と講習会の開催などを実施して啓発に努めた。

「競技者資格の決定」については、都道府県協会・競技団体にインターネットによる選手登録・競技エントリーシステムの活用を働きかけ、当年度には全都道府県で運用体制が整った。もっと広い層からボート競技への参加機会の増大を柱とする新たな選手登録制度についても検討ワーキンググループの活動をスタートさせた。

「ボート競技に関する図書の刊行」については、広報誌発行のほか、報道機関、メディア等に向けた広報活動として、記者懇談会、取材機会の提供などを行い協会事業の広報活動に努めた。

当年度は、当協会が重要課題として推進するプロジェクトについて、「人口増大と魅力向上プロジェクト」については、第 3 回ボート人口増大フォーラムを今年 3 月に開催、250 名の参加者があり、ボート競技に取り組む人々が全国的にも着実に伸びていることを実感する得難い機会となった。

「財政強化プロジェクト」については、当年度後半からは全世界的な経済環境の激変を受けて、我々スポーツ界を囲む環境も一挙に暗転し、今のところ早急な環境の好転も期待できない状況となった。協会の財政収支も悪化する事態を招来し、これを反省材料として今後の財政強化活動に取り組みねばならない。厳しい経済状況の中、寄附あるいは事業協賛を通じて協会財政を支えていただいた団体、個人に対して深甚な感謝の意を表したい。

当年度は、スポーツ界にとって 2016 年オリンピック大会の東京都招致が更なる重要性を持つ

年となった。このスポーツ界にとどまらず、日本にとっても大きな飛躍の機会となる東京招致に向けて、東京都、日本オリンピック委員会の要請に対して全面的な協力とサポートを行った。

## ■平成 20 年度実施事業

当協会は、ボート競技を振興して日本国民の体力の向上とスポーツ精神を育成することによりわが国文化の向上に寄与する目的を達成するために、以下の事業を行った。

### 1. 全日本選手権大会及び各種競漕会の開催に関する事業

本年度は以下の全日本選手権大会及び競漕会を開催した。大会成績は附属資料のとおり。

競漕会名	開催期日	開催場所・会場
JAPAN CUP 第 30 回全日本軽量級選手権大会	5/16 (金) ~18 (日)	埼玉県・戸田ボートコース
第 1 回全日本マスターズレガッタ	5/24 (土) ~25 (日)	愛知県・愛知池漕艇場
JOC ジュニアオリンピックカップ 第 6 回全日本ジュニア選手権大会	6/13 (金) ~15 (日)	熊本県・菊池市斑蛇口湖 ボート場
第 58 回全日本社会人選手権大会	7/12 (土) ~13 (日)	宮城県・宮城県長沼ボート場
第 28 回全日本中学選手権競漕大会	7/26 (土) ~27 (日)	岐阜県・長良川国際ボートコース
第 56 回全日本高等学校選手権競漕大会	8/7 (木) ~10 (日)	埼玉県・戸田ボートコース
第 35 回全日本大学選手権大会	8/21 (木) ~24 (日)	埼玉県・戸田ボートコース
第 48 回オックスフォード盾レガッタ	8/23 (土) ~24 (日)	埼玉県・戸田ボートコース
第 86 回全日本選手権大会	9/18 (木) ~21 (日)	埼玉県・戸田ボートコース
第 63 回国民体育大会ボート競技	10/3 (金) ~6 (月)	熊本県・菊池市斑蛇口湖ボート場
第 49 回全日本新人選手権大会	10/17 (金) ~19 (日)	埼玉県・戸田ボートコース
第 20 回全国高等学校選抜大会	3/20 (金) ~22 (日)	静岡県・浜松市天竜ボート場

### 2. オリンピック大会及びこれに準ずる国際競漕大会に日本を代表するクルー及び役員を選定し、参加させることに関する事業

#### (1) 国際競漕大会派遣事業

本年度は以下の国際競漕大会へ日本代表クルーを選定し、派遣した。各大会の参加種目、成績は附属資料のとおり。

競漕大会名	開催期日	開催国・場所
北京オリンピックアジア大陸予選	4/25 (金) ~27 (日)	中国・上海
FISA ワールドカップ第 1 戦	5/9 (金) ~11 (日)	ドイツ・ミュンヘン
FISA ワールドカップ第 3 戦	6/20 (金) ~22 (日)	ポーランド・ポズナン
FISAU23 世界選手権大会	7/17 (木) ~20 (日)	ドイツ・ブランデンブルグ
FISA 世界ジュニア選手権大会	7/22 (火) ~27 (日)	オーストリア・オッテンスハイム
FISA 世界選手権大会	7/22 (火) ~27 (日)	オーストリア・オッテンスハイム
北京オリンピック大会	8/9 (土) ~17 (日)	中国・北京
第 14 回アジアジュニア選手権大会	11/4 (火) ~9 (日)	香港・沙田

## (2) 国際審判員派遣事業

国際競漕大会で審判業務に従事のため、本年度は以下の大会へ国際審判員を派遣した。

競漕大会	開催期日	開催国・場所
北京オリンピックアジア大陸予選	4/25 (金) ~ 27 (日)	中国・上海
FISA ワールドカップ第2戦	5/30 (金) ~ 6/1 (日)	スイス・ルツェルン
FISAU23 世界選手権大会	7/17 (木) ~ 20 (日)	ドイツ・ブランデンブルグ
北京オリンピック大会	8/9 (土) ~ 17 (日)	中国・北京
世界大学選手権大会	9/4 (木) ~ 7 (日)	セルビア・ベルグラード
第14回アジアジュニア選手権大会	11/4 (火) ~ 9 (日)	香港・沙田

## (3) 国際関係事業

国際連盟の事業活動、競技規則、大会開催計画、各国動向など、最新情報を把握のため、本年度は以下の国際会議へ担当役員を派遣した。

会議名	会議日程	開催国・場所
国際漕艇連盟 (FISA) 年次通常総会	7/25 (金)	オーストリア・オッテンスハイム
FISA 特別総会	2/12 (木) ~ 15 (日)	南アフリカ・ケープタウン
アジア漕艇連盟 (ARF) 年次通常総会	11/8 (土)	香港・沙田

## 3. ボート競技に関する諸規則の制定に関する事業

### (1) コース規格規定の制定・変更に関する事業

平成19年度通常総会に於いて、コース規格規定第7条、19条、21条及び25条の改訂が承認され、改訂規定を平成20年6月1日、施行した。

### (2) ボートコース認定に関する事業

下記のボートコースについて、日本ボート協会コース規格規定に基づく認定調査を行い、当協会の公認コースに認定した。

コース名称	所在地	等級	距離/レーン数	認定有効期間
宮崎県富田浜漕艇場	宮崎県新富町	C	1000m/5 レーン	20/4/18~5年間
佐鳴湖ボートコース	静岡県浜松市	C	1000m/8 レーン	20/4/18~5年間
奥伊勢湖漕艇場	三重県大台町	C	1000m/4 レーン	20/6/20~5年間
福井県立久々子湖漕艇場	福井県美浜町	B	1000m/6 レーン	同上
京田川特設ボート場	山形県酒田市	C	1000m/3 レーン	同上
宮城県長沼ボート場	宮城県登米市	A	2000m/8 レーン	同上
茨戸川ボート場	北海道石狩市	C	1000m/3 レーン	20/7/18~5年間
新潟県津川町ボートコース	新潟県阿賀町	B	1000m/6 レーン	20/8/23~5年間
網走湖ボートコース	北海道網走市	C	1000m/4 レーン	同上
長崎県形上湾ボートコース	長崎県長崎市	B	1000m/6 レーン	同上
石川県津幡漕艇競技場	石川県津幡町	C	1000m/6 レーン	20/10/18~5年間

菊池市斑蛇口湖ボート場	熊本県菊池市	B	2000m/7 レーン	同上
広島県芦田川漕艇場	広島県福山市	A	2000m/8 レーン	20/11/21～5 年間
福島県菅荻野漕艇場	福島県喜多方市	B	1000m/6 レーン	20/12/19～5 年間
戸田ボートコース	埼玉県戸田市	A	2000m/6 レーン	21/1/17～5 年間

#### 4. ボート競技に関する調査・研究・指導・強化ならびに普及啓発に関する事業

##### (1) 審判関係事業

###### 1) 大会審判業務

当年度の協会主催・主管大会へ審判長、副審判長、審判員を派遣し、大会審判業務を行った。

###### 2) 審判員研修・養成事業

審判員の資格試験と認定試験及び研修会と講習会を以下のとおり実施した。

事業名	開催日程	開催場所	参加者数
第 69 回審判員研修会 (B 級審判員認定試験併催)	5/15(木)～18 日 (日)	埼玉県・戸田コース	30 名
第 70 回審判員研修会 (B 級審判員認定試験併催)	10/16(木)～19 日(日)	埼玉県・戸田コース	40 名
審判員講習会 (C 級審判員認定試験)	都道府県協会の要請により随時開催		

##### (2) 指導者養成事業

###### 1) (財) 日本体育協会公認スポーツ指導者養成事業

日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づき、各指導者資格取得のための養成講習会及び資格更新のための義務研修会を以下のとおり開催した。

養成指導者名	開催日程	開催場所	養成担当	人数
コーチ(専門科目)	10/30(木)～11/3(月)	埼玉県戸田市	日本ボート協会	21 名
スポーツドクター	10 月～21 年 2 月	都内	日本体育協会	1 名
アスレティックトレーナー	10 月～21 年 2 月	都内	日本体育協会	1 名
資格更新義務研修会	5/4(日)	瀬田漕艇 倶楽部(滋賀県)	日本ボート協会 滋賀県ボート協会	30 名

###### 2) 日本ボート協会認定ボートインストラクター養成事業

ボート普及を担う指導者人材を養成するため、ボートインストラクター養成講習会を以下のとおり開催した。

事業名	開催日	開催場所	主管団体	受講者数
第 1 回講習会	4/13(日)	兵庫県・加古川市立漕艇センター	兵庫県協会	44 名
第 2 回講習会	7/6(日)	神奈川県・横浜市鶴見漕艇場	神奈川県協会	35 名

第3回講習会	10/12(日)	静岡県・浜松市天竜ボート場	静岡県協会	21名
第4回講習会	1/11(日)	東京都・江戸川区ボート協会	東京都協会	35名

### (3) 日本ボート協会認定セーフティアドバイザー養成事業

全国的な安全意識の向上を目指して、公認セーフティアドバイザー研修会を以下のとおり実施した。本年度、全国で開催された安全講習会は附属資料のとおり。また、「アクシデントレポート制度による事故情報の収集」を制度化して、アクシデント、インシデントのレポートを収集し事故発生状況の把握と事故防止策の立案を行った。レポートの詳細は添付資料のとおり。

事業名	開催日程	会場	受講者数
第3回研修会	21/3/15(日)	埼玉県・戸田ボートコース	6名

### (4) 選手強化事業

シニア、U23及びジュニア日本代表選手の競技力強化を図るため、強化合宿を以下のとおり実施した。

区分	事業名	場所	開催日程
シニア U23	4月度強化合宿	埼玉県・戸田ボートコース	4/7(月)～20(日)
	5月度強化合宿	埼玉県・戸田ボートコース	5/7(月)～11(日) 5/19(月)～6/1(日)
シニア	北京オリンピック合宿	岩手県・田瀬湖ボート場	6/30(日)～7/29(火)
	第1次海外合宿	ギリシャ・アテネ	4/15(火)～6/24(火)
	第2次海外合宿	ギリシャ・イオアニナ	6/24(火)～7/29(火)
シニア U23 ジュニア	21年度強化指定選手 選考合宿	埼玉県・戸田ボートコース	2/16(月)～22(日) 3/2(月)～10(火)
	第1次強化合宿	熊本県・斑蛇口湖ボート場	6/15(日)～19(木)
ジュニア	第2次強化合宿	岩手県・田瀬湖ボート場	6/29(日)～7/10(木)

### (5) 競技者育成事業

競技力向上を図るため、「将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業」を以下のとおり実施した。

区分	事業名	場所	開催日程
ジュニア	第1次強化合宿	静岡県・浜松市天竜ボート場	12/22(月)～26(金)
	第2次強化合宿	埼玉県・戸田ボートコース	21/1/24(土)～31(土)
	第3次強化合宿	埼玉県・戸田ボートコース	21/2/16(月)～22(月)

## (6) 普及啓発事業

### 1) 第21回全国マシンローイング大会の開催

第21回全国大会を10月～平成21年2月の間、全国9ブロック及び12都道府県15会場で開催した。参加者は3,617名、昨年比13%増、選手登録者の45.6%が参加した。

### 2) 第2回外濠レガッタの開催

ボート人口増大活動の一環として、第2回外濠レガッタを10/26(日)、都内の牛込濠で開催した。大学選手、一般参加者のレースを催し、ボート競技の魅力アップに努めた。

### 3) 関連団体の活動支援

中学生、高校生のボート競技振興・普及及び障害者ボート競技の普及を図るため、それぞれの関連団体である全国中学校ボート連盟、全国高体連ボート専門部、NPO法人日本アダプティブローイング協会の競漕大会と普及活動に対して助成金交付と業務支援を行った。

## (7) メディカル・ドーピング検査

本年度は以下のような事業を実施した。

- 1) 主催大会開催中の救急事態に備え、医師を会場に常駐させ対応を図った。
- 2) 海外遠征に医師を帯同させ、選手のメディカルチェック、コンディショニングの調整、助言などの業務に当たらせた。
- 3) 全日本選手権大会(全日本、全日本軽量級、全日本大学、全日本新人)に於いて、大会内ドーピング検査を日本アンチドーピング機構(JADA)の委託事業として実施した。計42検体の検査結果はすべて陰性であり、協会広報誌、ホームページに結果を掲載した。また、大会外検査は11件行い、結果は全て陰性であったことをFISAに報告した。
- 4) 協会ホームページ、日本アンチドーピング機構との協力を通じて、アンチドーピングに関する普及・啓発講習会を4回、大会開催時及び強化合宿の際に実施した。
- 5) 選手の身体データの収集・分析を継続した。

## 5. スポーツマンシップの育成と競技者資格の決定に関する事業

本年度は以下のような事業を実施した。

### (1) 選手登録

都道府県ボート協会と所属競技団体に対して、インターネットによる選手登録・競技エントリーシステムの活用を推進し、47都道府県協会の全てで運用体制が整った。

### (2) 新選手登録制度

現制度を見直して、もっと広い層から団体・選手登録や競技会への参加機会が図れるよう、新たな選手登録制度の確立に向けて検討ワーキンググループを設置した。

## 6. 競漕艇及び附属具の規格の決定と審査に関する事業

本年度は以下のような事業を実施した。

### (1) 規格艇の審査と登録

男女シングルスカルについて審査を行い、規格艇登録原簿に登録し、本登録を公示した。

### (2) 規格艇の検査

第 63 回国民体育大会、第 56 回全日本高等学校選手権競漕大会、第 20 回全国高等学校選抜大会に於いて、使用艇の検査業務を実施した。

### (3) 新型レクリエーション艇の開発

スピード感があり、子供にも取扱い可能で安全性の高い普及艇の平成 22 年度内完成を目指して、開発プロジェクトチームを立ち上げた。

## 7. 各種ボート競技に関する図書の刊行に関する事業

### (1) 協会広報誌の発行

「月刊ローイング」479 号～488 号を発行して、当協会の事業、全国のボート関係活動、ボート競技の記録、指導・育成などに関して広く読者に伝えた。

### (2) 広報活動

東京運動記者クラブの他、報道機関、テレビ、メディアと連携を図り、メディア懇談会の開催、北京オリンピック代表選手の合宿取材・記者会見、大会・選手情報の提供などを通じて協会事業の広報活動を行った。

### (3) 協会ホームページ

協会ホームページのグレードアップ、リニューアルを進めて、当協会事業に関する情報を迅速にアップし、関係団体・関係者に広く周知を図るとともに、より一層のコンテンツ充実を努めた。平成 20 年度の協会ホームページへの総アクセス数は、約 330 万件となっている。

### (4) 都道府県ボート協会ホームページの開設支援

都道府県協会の要請に協力し、ホームページ開設・維持に必要な支援を行った。当年度末の時点で 47 都道府県協会のうち 28 協会が開設している。

### (5) 展示会への出展

社団法人日本舟艇工業会の依頼によりジャパンインターナショナルボートショー2009 イン横浜（開催 3/12～15、会場パシフィコ横浜）の主催者企画コーナーに競漕艇を出展しボート競技の PR に努めた。来場者数 40,500 人。

## 8. その他の目的を達成するため必要な事業

### (1) 協会財政基盤の強化に関する事業

第 86 回全日本選手権大会の開催に当たり、企業・団体からの協賛を募った。1 社より特別協賛、12 社より一般協賛の協力を得た。

### (2) ボート人口増大／第 3 回ボート人口増大フォーラムの開催

第 3 回フォーラムは 3/20（金）、静岡県浜松市「はまきたプラザホテル」で開催され、

講師に迎えた京都市伏見工業高等学校ラグビー部総監督 山口良治氏が「チームスポーツと友情、出逢いから絆へ」と題する講演を行った。参加者数 240 名。冒頭、塩谷文部科学大臣のあいさつがあり、講演会終了後、参加者による交流会を行った。

### (3) 環境方針の確立

「日本ボート協会は、地球環境の保護がすべての人間、すべての団体にとって重要な責務であるとの認識に立ち、協会活動のあらゆる分野で全員が地球温暖化防止を始めとする「地球環境との調和、環境の保護・改善」に配慮して行動するとともに、都道府県協会を通じて日本ボート界に於けるすべての団体、個人の環境意識向上に努める」とする基本方針と活動方針を定めて公表した。平成 20 年度に各都道府県協会から報告された環境活動は附属資料のとおり。

以上